



コロナを越えて希望の未来を  
福島市長 木幡 浩

# 明

けましておめでとうござい  
ます。

コロナ禍の中、2度目の  
正月を迎えることになりました。市民  
の皆さま、事業者の皆さま、そして医  
療・保健関係者の皆さまには、新型コ  
ロナ対策にご協力をいただき、心より  
感謝申し上げます。

私は、この度、市民の皆さまのご支  
持をいただき、2期目の市政のかじ取  
りを担わせていただくことになりまし  
た。改めて気持ちを引き締め、重責を  
果たしてまいります。

1期目は、中核市への移行、東京2  
020オリンピック・パラリンピック  
競技大会開催、大震災から10年目とい  
う本市にとって大きな転機を迎える中  
で、多くの災難に直面しながらも、災  
いを成長の糧に変えて「ふくしまの新  
ステージ」に向けた取り組みを足を止  
めずに前進させてまいりました。

待機児童の解消、学びの環境整備、  
風格ある県都のまちづくりなど、市政  
は動き、福島市は大きく変わりつつあ  
ります。  
しかしながら、前途には、今なお新  
型コロナが立ちほだかっています。感

# 明

けましておめでとうござい  
ます。

昨年は市議会に対しまし  
て格別なるご理解とご支援を賜りまし  
たことに厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルスは、昨年も市民  
生活、事業活動に大きな影響を及ぼし  
ました。特に、医療、保健関係者の皆  
さまの感染者対応やワクチン接種など  
献身的なご尽力に、心より敬意と感謝  
を申し上げます。

長期化するコロナ禍の中、市議会と  
いたしまして、緊急会議を開催する  
など、国の施策や市独自の緊急支援策  
を積極的に支援してまいりました。

このような中、東京2020オリ  
ンピック・パラリンピック競技大会が開  
催され、本市において、無観客ではあ  
りましたが、野球、ソフトボール競技  
が開催され、多くの感動を与えていた  
だきました。

また、東北中央自動車道福島相馬道  
路が全線開通し、相双地区との距離が  
縮まり、本年、春には、福島大笹生イ  
ンターチェンジ周辺に「道の駅ふくし  
ま」が開業します。これにより、観光  
や物流の増加による交流人口の拡大や  
地域振興が期待されています。



希望ある未来の実現に向けて  
福島市議会議長 真田 広志

染防止を徹底し、厳しい暮らしや地域  
経済の再生を進めて、一日も早く新型  
コロナを乗り越え、静かな  
る危機、人口減少の流れを変えてい  
なければなりません。

市民が住み続けたいと願い、人が集  
まるまちを目指して、暮らしと環境の  
安全安心を強固に、子育て・教育で選  
ばれる都市となり、将来にわたりやっ  
ていける仕事を増やし、心豊かに楽し  
める賑わいと文化を振興して、都市と  
してのグレートアップを進めてまいり  
ます。併せて、女性が活躍できる環境  
づくりと人に優しいデジタル化を推進  
し、移住定住の促進にも取り組んでま  
いります。

「コロナを越えて希望の未来を」市民  
の皆さまと共に創るべく、引き続き「開  
かれた市政」「スピードと実行」をモツ  
トに全力を挙げてまいりますので、  
ご協力をお願いいたします。  
本年がコロナ禍からの夜明けの光が  
差し、皆さまにとって健康で幸多き年  
となりますよう心よりお祈りいたしま  
す。

人口減少、少子高齢化が進む中、本  
市が現在進めている福島圏域連携中枢  
都市圏の形成は、圏域全体の活性化を  
図る重要な取り組みであります。市議  
会といたしまして、圏域の市町村議  
会との連携を図り、地域資源の活用に  
よる持続可能な圏域づくりのための取  
り組みを積極的に支援してまいりたい  
と考えております。

さらには、今年から福島駅東口駅前  
再開発事業がスタートします。福島市  
のみならず、県北、圏域にとっても重  
要なこの事業がよりよいものとなるこ  
とを期待しています。

新しい年を迎え、私も市議会とい  
たしまして、新型コロナウイルスを克服し、  
感染者を抑えた上で、地域経済の回復  
を図り、希望ある未来へのスタート、  
更なる魅力ある県都福島市の実現のた  
め、精一杯取り組んでまいります。

市民の声に誠実に耳を傾け、真に開  
かれた議会を目指してまいりますので、  
本年もご支援とご協力を賜りますよう  
お願い申し上げます。

本年が皆さまにとって健康で幸多き  
年となりますことを心からお祈り申し  
上げまして、新年のごあいさつとい  
たします。